

第60回IRIDeS金曜フォーラム

日時：2019年1月25日（金）16時30分～18時00分

会場：東北大学災害科学国際研究所棟 1階 会議・セミナー室（仙台市青葉区荒巻字青葉468-1）

テーマ：「実務者と研究者の連携による実践的な防災・復興」

1. 16:30-16:50 （発表20分）

タイトル：災害統計グローバルセンターにおける実務者と研究者の連携

話題提供者：佐々木大輔（情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス）

発表要旨

災害統計グローバルセンター（GCDS）は、災害被害に関する情報を収集、アーカイブ化、分析した上で統計データベースを構築し、防災減災対策に活用することを目標に、2015年4月にIRIDeSにおいて新設された組織です。

現在、国連開発計画（UNDP）、富士通株式会社、パンフィックコンサルタンツ株式会社等と共同し、災害統計の整備に係る能力強化や災害統計分析のためのグローバルプラットフォームの開発、仙台防災枠組の推進に関する独立した科学的分析の実施等に向けて取組を進めています。

2. 16:50-17:10 （発表20分）

タイトル：研究者・広報室・メディアの三者連携による海外発信：国際広報へ向けて

話題提供者：中鉢奈津子（災害科学国際研究所 広報室）

発表要旨

災害研広報室は、所内研究者のメディア取材が円滑かつ効果的に行われるよう尽力してきたが、国内メディアに比し、海外メディア取材が極めて少ない状況が続いていた。その問題意識を出発点とし、今年度より、国際広報を明示的に目指した活動を開始した。未だ試行錯誤段階ではあるが、研究者・広報室・メディアの三者連携による国際防災活動が海外発信につながった実例を報告し、今後の方向性と可能性を議論する。

3. 17:10-17:30 （発表20分）

タイトル：石巻・女川の復興事業における実務的な連携と実践

話題提供者：平野勝也（情報管理・社会対応研究部門 災害復興実践学分野）

発表要旨

東日本大震災の発災から8年近く、石巻、女川等の復興事業（主に社会基盤整備とまちづくり）に実務的に関わってきた中で、まず、実務家との連携の実際や成果について紹介する。さらに、そうした関わりの中で、行政や計画・設計を担当するコンサルタント等と意見の相違や対立を多数乗り越えてきた。そうした中で感じてきた学識者と実務家との連携のあり方について、経験を踏まえて紹介する。

4. 17:30-18:00 質疑／総合討論（30分）

司会・進行：平野勝也（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）